

## 令和元年度 第2回伊那谷自治体会議（概要）

### ■日時

令和2年3月26日（木）15:03～16:16

### ■場所

伊那合同庁舎講堂（知事室とつないだウェブ会議）

### ■報告事項

(1) 県の組織改正について

意見なし。

(2) 上伊那産業振興会アンケート調査の状況について

### ■主な意見等

#### 【出席者】

- ・ 前回の会議で民間と一緒に進める話を受け、民間のいろんな業種がリニアに対して、どう思うのか、期待なのかを調査するために始まっている。

#### 【阿部知事】

- ・ 南信州と上伊那で同じような取組は、同じように進めた方が良いと思うが、こうしたアンケートについて南信州では何か動きはあるのか。

#### 【出席者】

- ・ 上伊那の方が先行して動いているというように捉えている。
- ・ 商工会議所や商工会の皆様を中心にこれから話をしていく段階。

#### 【阿部知事】

- ・ いろんな取組を進めていく上で、行政だけではなく、民間の考え方や主体的な取組も重要と思う。南信州も上伊那の取組を参考にし、検討いただければありがたい。

(3) リニア開業を見据えたまちづくり講演会の開催結果について

意見なし。

### ■協議事項

リニアバレー構想実現プラン（仮称）基本方針（案）について

### ■主な意見等

#### 【出席者】

- ・ 前回の自治体会議で出された意見等がほとんど反映されており、異論はない。
- ・ 実行する推進母体も明確になっており、きちんとした計画を立て、予算づけをしながら

ら進めていくことで良い。

- ・二次交通の整備は、観光や二地域居住にも関係する。ここを考えたときに MaaS をやっておかないといけない。
- ・キャッシュレスの取組もやっていく必要がある。JR 東海、宿泊関係、交通事業者とも連携し、一括でキャッシュレス決済ができるような仕組みを準備できれば。
- ・今回の新型コロナウイルスで、企業がテレワークを一気に進めた。テレワークは、企業誘致だけではなく、交流人口の働く場づくりに繋がる。
- ・私も基本方針、テレワークについて同意見。
- ・二次交通の関係は広域観光ルートをどう作るかとも関係が深い。観光事業者や交通事業者との連携の中で、こうした取組の肉付けをしていくことができればと思う。
- ・これからどういう形でロードマップを描いていくかということになる。誰が、何を、いつまでに、どうやるのかの具体的なことについて、更なる議論をお願いしたい。
- ・実現に向けて整理された基本方針案に異論はない。広域二次交通の整備を最優先にする位置づけにしていだければと思う。
- ・リニアの最大のメリットは時間的距離の短縮であり、観光、産業へ波及効果を高めるためには、広域二次交通整備にかかっている。最も速く、効率的な二次交通が実現できるよう、一緒に知恵を絞りたい。そのために、関係する業者や有識者を加えた実務的な検討をする組織を早く立ち上げ、具体策を取りまとめてほしい。広域二次交通の具体的な姿は、リニア開業前に固まっていないといけない。
- ・駒ヶ根市は、リニア中央新幹線の二次交通をまちづくりの柱の一つと考えている。まちの中に広域二次交通と市内各所を結ぶ三次交通の結節点をつくり、まちづくりの拠点としたい。一刻も早い二次交通の具体化を進めることが大きな意味を持ち、伊那谷全体にとっても最も重要。
- ・具体的な取組については、示された案で賛成である。
- ・特に私どもの小さな過疎の村は、二次交通のことは重要である。
- ・今まで時間をかけて議論をしてきたものであり、基本方針案を了承したい。
- ・リニア効果をリニア駅から遠いところまでもたらすことは重要なことであり、最優先に取り組むものは二次交通の整備。
- ・どんな組織でどう進めるのかを早めに決めながら、具体化をしていくことが大切。
- ・この構想、プランについて異存はない。
- ・木曾としては観光にかなり期待しており、二次交通をしっかり結び、リニア効果の波及をお願いしたい。

#### 【出席者（県関係）】

- ・二次交通も生活者の視点と観光等交流を促進していく視点と両方ある。
- ・MaaS の推進についても、生活者と観光利用者等の利便性を高める両方の観点から考えていかなければならない。
- ・二次交通は手段のため、目的とセットで考える必要があり、そういう観点と合わせて

検討し、連携していきたい。

- ・広域観光を担う DMO の形を早く作ることが肝心。そのために観光機構のスタッフが訪問し、気運醸成やスタッフの皆様と話をしている。
- ・上伊那のインバウンドのワーキンググループを活性化させ、伊那谷の観光局の体制を固め、上伊那地域全体で取り組む。それを南信州と木曾にどのように繋げていくか、私どもが入って取り組みたい。

#### 【出席者】

- ・高山市から木曾までを繋ぐ定期バスを 1 日 2 便出す取組をしており、今まで知られていなかった 361 号線の活用や公共交通があることを発信していこうと考えている。
- ・インバウンドは、伊那谷だけで完結せず、金沢や善光寺など大きな周遊を視野に入れ、関連する自治体と連携し取り組みたい。
- ・外国人は自転車を活用し、1 日に 150~200km 近く走る方もいる。二次交通が無くても、移動手段として大きな周回ルートを提案できればと考えており、そうした動きを検討に入れてほしい。
- ・南信州では、南信州観光公社が農家民泊を中心としたグリーンツーリズムに取り組んでいる。
- ・飯田下伊那、木曾でインバウンドをどう誘客するか重要であり、力を入れている。
- ・サイクルツーリズムについて、飯田線を活用して、サイクルトレインの試みができれば、かなりの需要があるのではないかと考える。
- ・観光というものはもっと広域な単位で考えるものであり、大きな誘客を図るためには、受け皿は大きければ大きいほど、選択肢が増えて良い。地域 DMO があるが、これから広域的な DMO が果たす役割が大きくなっていく。
- ・今回のコロナウイルスが示したことは、東京一極集中は異常であること。感染の大きな要因は密集にあり、ビジネスにとって東京一極集中は大きなリスクがある。リニアは、地方に拠点を移す大きなきっかけになるし、受け皿があれば、すぐに企業は動く。

#### 【事務局】

- ・広域的な観光を進めていくには、各地の DMO を広域的に広げ、受け皿を作っていくことが必要という共通認識で良いか。  
→了承。

#### 【出席者】

- ・MaaS について、JR 東海は積極的ではないという話も聞いている。今から働きかけ、キャッシュレスも含め、JR にもしっかりと考えてもらいたい。

#### 【阿部知事】

- ・基本方針（案）については、これでよろしいか。→了承。
- ・二次交通について、県が責任をもって進めなければいけない。速やかに体制を整えて着手していく。地域のどこを優先的に結ぶかは各地域、各市町村の考え方によるため、

具体的なご意見を出してほしい。

- ・生活者の方、ビジネスの方にとっての二次交通と、観光客にとっての二次交通はだいぶ視点が違う。
- ・県内観光では、伊那谷だけでなく、諏訪や松本に広げていくことも考えていかなければいけない。木曾地域と伊那谷は、観光面では一体で考えた方がいい。
- ・木曾地域は岐阜県駅の活用も視野に入れた二次交通というのでも考えていくこと、木曾エリアと伊那谷をどう繋ぐかという観点も必要。伊那谷地域の利便性を高めるというのはもとより最重要だと思うが、それ以外の地域も視野に入れて、考えてもらうことが大事。
- ・観光については、地域における DMO の充実をさせていただきたい。受入環境整備は、行政が相当取り組まなければいけない。本来の DMO の在り方を考えれば、DMO の発言力、発信力が高まった体制を作ることが重要。
- ・企業立地について、県としてもリニア時代を見据え、県全体で進めていかなければいけないと思っている。市町村の協力が不可欠であり、具体的な立地場所は、市町村に考えていただきたい。県も今の時代にあった企業立地政策を再構築するので、各市町村における支援策も、これを踏まえ取り組んでいただきたい。

#### 【出席者】

- ・エス・バードはここ 1 年多くの方に活用いただき、インキュベート機能についても県外からの引き合いが来ている。
- ・飯田下伊那全体で産業立地政策を県と一緒に進めていくことが必要な時期だと捉えているのでよろしくお願ひしたい。
- ・信州大学の農学部、農業系、これは非常に強みであり、それを活かして誘致する。発酵の取組もある。県と一緒にやっていくことが大切。
- ・大学の存在は吸引力になるので、企業誘致について一緒に考えていただければと思う。

#### 【出席者（県出席者）】

- ・広域観光について、木曾、上伊那、南信州の DMO の担当者が集まり、3 地域連携する取組、できれば JR 東海も入れ、連携した観光 PR ができないかという話をした。
- ・上伊那の場合は、南北である飯田線、中央道を使った二次交通と 361 号線の東西の交通が非常に大事。おんたけ観光局が 10 月、11 月と高山と木曾を結ぶバスを走らせたが、それと連携し、伊那谷、権兵衛を越えるようなルートを考えていかなければいけないと思っている。
- ・町村長は、リニアバレー構想の方向については非常にいいと理解を得ている。
- ・目的となるもの、なぜやるかというところが首長ごとで異なるため、明確な方向性を持ったうえで議論させていただきたい。
- ・観光について、民間の事業者を巻き込み新しいコンテンツを作ることも非常に大切であり、どういう話し合いを持てるのか研究している。
- ・企業立地について、町村長の中では、今ある企業の人手不足を心配する声がある。キ

キャリア教育、移住促進でその部分もカバーをしながら、議論していくことで市町村を巻き込んで企業立地を進めていきたい。

#### 【事務局】

- ・ただ今の議論を踏まえ、この方針で案を取り、決定ということをお願いしたい。今後、特に、赤字の部分について体制を構築して進めていきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

### ■リニア駅周辺整備の検討状況について

#### ■主な意見等

##### 【出席者】

- ・先日の JR 東海金子社長とのトップ会談で地元意見を尊重し、これからの工事を進めていくよう話をしていただいたことに御礼申し上げます。
- ・これからも県の皆様には、地元の皆様にしっかり寄り添い、リニア工事が着実に進捗し、2027年に確実に開業できるようご協力をお願い申し上げます。

##### 【阿部知事】

- ・金子社長には、地域の課題を伝え、いろんな分野について前向きに回答があった。
- ・JR 東海としても関係市町村、地元の皆様とよく相談をして進めていくとの話であった。また、県としても、建設促進に向けて、皆様と一緒に連携して取り組んでいく。

##### 【出席者】

- ・伊駒アルプスロードについて、リニア開業を前に、国の直轄事業として着工の見込みとなり、こうした結果になったことに、知事をはじめ、県の皆様に心から感謝を申し上げます。リニア開通に完成が間に合うよう、私どももしっかりと取り組みたい。

##### 【阿部知事】

- ・白鳥市長をはじめ、地元の皆さんの強力な後押しのおかげで、前進させることができました。

#### ◆知事総括

- ・4月以降、南信州地域振興局で、リニアバレー構想推進のための体制を強化することとしており、各市町村長の皆様には地域振興局の取組にぜひご協力をお願いしたい。
- ・リニアバレー構想実現プランの基本方針に同意をいただいた。これは実行していくことに意義がある。県として取り組まなければいけない部分については、できるだけ速やかに着手し、具体的な結果が出せるように取り組んでいきたい。進めていくにあたり、各地域や市町村長の皆様のご指導、ご支援が不可欠であり、引き続きご協力いただきたい。

(以上)